

OCHISセミナー

高齢、肥満のリスク大

SAS検査10万人調査

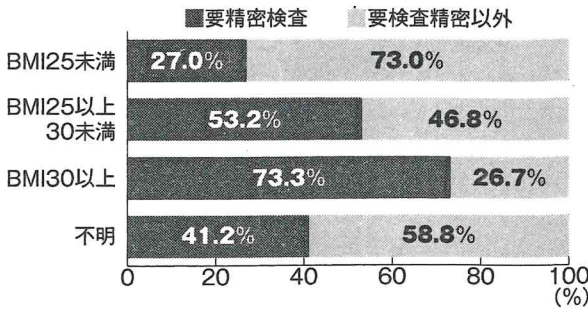
ヘルスケアネットワーク(「OCHIS」、武田裕理事長)は8日、大阪市で「運輸業界のビッグデータをどう活かす」と題したセミナーを開いた。これまで蓄積した業界に特化した健康データを紹介した上で、健康起因事故が後を絶たない現状を改善するためにSAS(睡眠時無呼吸症候群)スクリーニングや定期健康診断が重要だと呼び掛けた。

果をまとめ、SASと年齢や肥満度などの関係性を調査した。症状が疑われる「要精密検査」は全体の37.7%を占めた。年代別では80代以上が74.6%と最も多く、70代56.8%、60代48.0%

また、BMI(肥満度)との関係性では、BMI 25未満の普通体重では、要精密検査と判定されたのは27.0%。一方、BMI 25以上30未満の肥満者では53.2%に跳ね上がり、BMI 30以上では73.3%を示し、SASと肥満者の関係性が裏付けられたIIグラフ。さら

に眠気の自覚症状がないケースが大半で、潜在的な患者が多い実態も分かった。今回のセミナーはウェブでも配信。基調講演には国土交通省物流・自動車局の永井啓文安全政策課長、全ト協交通・環境部の大西政弘調査役などが登壇し、健康管理の支援策などを語った。(遠藤 仁志)

BMIとSASは関係性が見られる



また、BMI(肥満度)との関係性では、BMI 25未満の普通体重では、要精密検査と判定されたのは27.0%。一方、BMI 25以上30未満の肥満者では53.2%に跳ね上がり、BMI 30以上では73.3%を示し、SASと肥満者の関係性が裏付けられたIIグラフ。さら

に眠気の自覚症状がないケースが大半で、潜在的な患者が多い実態も分かった。今回のセミナーはウェブでも配信。基調講演には国土交通省物流・自動車局の永井啓文安全政策課長、全ト協交通・環境部の大西政弘調査役などが登壇し、健康管理の支援策などを語った。(遠藤 仁志)

また、BMI(肥満度)との関係性では、BMI 25未満の普通体重では、要精密検査と判定されたのは27.0%。一方、BMI 25以上30未満の肥満者では53.2%に跳ね上がり、BMI 30以上では73.3%を示し、SASと肥満者の関係性が裏付けられたIIグラフ。さら